

# Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局  
東部教育局  
〒680-0846  
鳥取市扇町21番地  
東教発 H27.3.2 No.130  
<http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

## 豊かな表情で主体的に学ぶ姿をめざして 鳥取市立気高中学校

～自ら考え、豊かに表現する生徒の育成～

気高中学校では、「中学校区でつながる授業改革ステップアップ事業」を受け、校区内4小学校と協働して「とっとりの学び10の視点」の中の3つに重点をおき授業改善を進めています。小学校で育ててきた学び方・学び合う姿を土台に中学校独自の視点も加えることで、学校行事や生徒会活動、部活動なども含め、全教育活動を通じての実践となり、いきいきと学びに向かう生徒の姿を実現しています。



### とっとりの学び10の視点を重点化

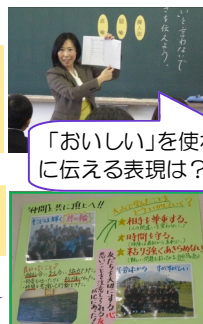
○指導案に明記

- ①魅力的な課題・教材の提示
- ⑤説明・発表の機会の充実
- ⑧学習を振り返る活動の設定

○中学校独自にもう1つ

- ⑩落ち着いたのびのびと学べる環境づくり

居場所や成長を実感できる掲示



「おいしい」を使わずに伝える表現は?

### 参観記録用紙をツールとした授業交換会

【授業交換】

- (例)電子黒板の活用に挑戦!
- (例)単元を貫く言語活動に挑戦!

授業交換会 参観記録用紙

2年 組【数学】科【 〇〇】

【授業者】

視点として事前にアピールポイントや挑戦を示す

【参観者】

参観記録に記入し授業者に返す

【授業者】

参観記録に記入し授業者に返す

3. 参観日時： 〇月〇日(〇) 〇限 〇時 〇分～

4. 研究の視点に沿った工夫が見られたか、活動場面・内容などを記入してください。



学力調査やアンケート調査の数値に加え、子どもの表情も授業改善の有効な評価指標です。目の前の子どもの姿をまっすぐに見つめることから授業改善は始まります。そこには、授業の質の向上をめざして、一步先へ踏み出そうとする教師の熱意と挑戦しようとする勇気があります。学校全体で、さらには中学校区で取り組むことで、その効果はより大きなものになります。

## 今求められる総合的な学習の時間

局長 杉本 仁詞

「地方創生」を担う人づくりやグローバル人材の育成が求められている今、学校においてはより一層総合的な学習の時間の重要性が増している。

昨年12月、鳥取県教育研究大会で鳴門教育大学村川雅弘教授の講演があった。配布された資料(「教育論壇」確かな学力向上を目指して)を参考に、特に印象に残ったところをまとめてみた。

平成25年度の全国学力・学習状況調査の結果では、総合的な学習の時間において探究的に取り組んでいる学校は、B問題の成績が伸びているというデータが示されている。国の内外で提唱されてきた様々な学力観について整理してみると、共通性が高いのが「問題解決能力」「対人関係形成力・協調性・コミュニケーション力」「自律性・主体性」である。これは、次の学習指導要領改訂に影響を与え、かつPISA調査の理論基盤である「キー・コンピテンシー」の三つのカテゴリーとも符合している。総合的な学習の時間では「育てようとする資質や能力及び態度」として「学習に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会とのかかわりに関すること」の三つの視点が掲げられている。これらの視点が「キー・コンピテンシー」の三つのカテゴリーと一致している。

この講演を聴きながら、改めて総合的な学習の時間でめざす子どもの姿を思い浮かべてみた。

- ・身の回りの問題等について、自ら課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決していく
- ・自らの生活や行動等を振り返り、一人一人が自分の生き方を考えていく

これは、文部科学省の検討会等で議論されている「21世紀型能力」「新しい能力観」につながるものだと思う。総合的な学習の時間をさらに充実させるべく、指導力を向上させていきたいものである。

学校教育担当

# 一枚岩の組織となるために～平成26年度学校訪問より～



組織が一つの方向に向かってがっちりとは結束する意味を表す『一枚岩』という言葉があります。学校訪問したある学校は、今年度の取組に対する先生方の共通理解がなされ、どの学級でも共通の姿勢に基づいた実践を進めておられることがよく分かり、まさに一枚岩の取組で、子どもたちは生き生きと自分の思いを表現していました。今回は、組織を強くするヒントを学校の実践から紹介します。

## 若手教員育成を意識した研究会

A小学校の授業研究会では、研究主任のアイデアで、若手教員にグループの報告を任せたり、適材適所でベテランの教員を活用したりして若手の力を引き出そうとしている。



## 生徒の主体性を育むための教師の構え

C中学校では、生徒の主体性を最大限に引き出そうと、異学年の組団を結成し、各行事においてつながりを意識した交流活動を取り入れている。教師は生徒の力を信じ、できるだけ見守り、適切にアドバイスをを行う。



また、教室掲示の構成を全学年で統一し、組団からのメッセージや行事に向かう思いを生かす。



※解団式では、組団を引っ張ってきた3年生が進行をすべてリードし、生の言葉で1・2年生にその思いを伝え、次のリーダーへとバトンを託していました。

## 小中合同指導案検討会

B中学校区では、中学校が小学校の授業研究に対するノウハウや授業づくりに学ぼうと、小中合同で中2の指導案検討会を行い、合同の授業研究会を開催した。今までにない発想で、小中連携の新しい形にチャレンジした。



これからの時代を生きる子どもたちには、「今後起こりうる変化を乗り越え、志や意欲をもって、他者と協働しながら未来を切り開いていく力が必要」と言われています。そのためには、まず私たち自身が、教育の最新情報を得ようとしたり、新しい方法で協働しながらチャレンジしたりしていくことが大切です。

## 社会教育 コーナー



## 学校と公民館のコラボレーション

～鳥取市立末恒小学校の取組より～

地域の人材を活用した学校支援では、公民館や図書館などの身近な社会教育施設の力を活用することも有効な手立てです。鳥取市立末恒小学校が平成19年度から末恒地区公民館と協働で行っている取組を紹介します。

「わくわく交流ひろば」…6月から12月までの年6回  
 毎回、水曜日の昼休憩・昼掃除時(13:00～13:40)に実施

### ☆運営のポイント

- ・当日の運営は「実行委員会」を組織して実施  
 (地域・保護者各20名程度<学校支援ボランティアを含む>)
- ・「ものづくりコーナー」は地区公民館が主となって運営
- ・「むかしのあそびコーナー」は地域・保護者ボランティアが、「6年生企画あそびコーナー」は6年生が毎回企画し、運営

### ☆成果 (小学校・公民館)

- 登下校の挨拶をはじめ、学校生活の様々な場面で子どもの意欲的な姿が数多く見られるようになった。
- わくわく交流ひろばが「子どもや保護者」と「地域」、そして「学校」をつなぐ良い機会となっている。

### ものづくり コーナー <毎回と学級 ずつの実施>



竹を使った一輪押し作り



大きなすごろく



将棋で真剣勝負



落ち着いて、豆つまみ



輪投げ

### 6年生企画あそび コーナー (体育館)



手芸は和気あいあいと



新聞紙で紙ひこうき作り

身近な社会教育施設と連携することで、地域人材を見つけやすくなったり、支援の依頼が容易になったりして学校支援が充実します。また、社会教育施設のスタッフやサークル等で活動している方々とながらすることで、子どもたちに対する地域の思いも学ぶこともできます。目的を共有しながら協働し、子どもたちの育ちを分かち合い、双方の信頼関係を深めることにつながります。